

審判上の心得について

宮城県高体連剣道専門部審判部

【入退場、定位置までの移動】

- ① 試合場への入退場は、3人の審判が呼吸を合わせて行う。
- ② 審判旗は柄の部分の掌に収める。(1本の場合も同様) また、旗を振らない。
- ③ 定位置は、11mの正方形の場合、ラインより1m内側とする。
- ④ 旗を巻く、ほどくのは三人揃って行う。

【宣告について】

- ① 発声は大きく堂々と。試合場の審判主任や他の選手にも聞こえるくらいで。
- ② 「始め」の宣告は適正な機会に行う。遅すぎると選手の気が削がれる。また、試合者の気はやり前傾姿勢で倒れる、などの動きがあれば、静止した状態で行わせる。
- ③ 主審が見えないところで、選手が場外に出たり、危険な状況や不当行為があった場合、副審も「止め」をかけることがある。このときも発声を伴う。

【位置取りについて】

- ① 試合者の動きを先取りし、片側(表・裏)に3人の審判が偏ることがないように。
- ② 位置取りは試合者と他の2人の審判が見える二等辺三角形になるように互いに協調して動く。
- ③ 主審が早く試合者の頂点に入ると副審は動きやすい。
- ④ 位置取りの際は遠回りせず、切り込んで入る。(位置取りが悪いと他の2人の審判が視界に入らない)
- ⑤ 動きは速く、思い切りよく動く。ただし、走ってはいけない。
- ⑥ 試合者との距離は遠すぎず近すぎず。第三者ではなく、試合をつくる一人であることを自覚する。
- ⑦ 試合場内で審判を行うように心掛ける。試合者の位置によっては場外に出ることもあり得るが、「どこにいても良い」という意識ではいけない。

【審判上の注意点】

- ① 試合者を裁く自覚を持ち、自信を持った行動を心掛ける。
- ② 試合者に体を正対させ、姿勢正しく行う。斜めから見たり、のぞき込むことの無いように。
- ③ 紅白の目印と選手のタイプや癖を確認し、旗の上げ直しが無いように心掛ける。
- ④ 試合者が転倒した場合、一呼吸見て「止め」をかける。その前に有効打突があれば一本となる。しかし打突があるまで待つ訳ではなく、あくまで一呼吸。ただし、危険な場合は即座に「止め」をかける。
- ⑤ 打突の終末まで見届ける。残心が不適切な場合は、合議の上有効打突の取り消しもあり得る。
- ⑥ 試合中に選手から中止要請が出された場合は、主審は必ずその理由を確認する。理由が正当でない場合は、合議の上、不当な中止要請の反則もあり得る。

【その他】

- ① 次回審判席では、旗は膝の上に横にして置く。足組み、腕組みなどせず、観客からも見られていることを意識する。